



進学事典

# 『進学事典』で比較の大切さに気づき 2校以上見学する生徒が急増

— 岐阜・県立 八百津高校 —

取材・文／太田知子

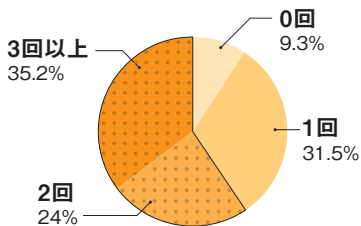


校長 飯田健二先生 (中央)  
教頭 野田守彦先生 (右)  
進路指導主事 高井良夫先生 (左)

### School Data

生徒数 / 337人 (男子160人・女子177人) 普通科12学級  
進路状況 (2010年度) / 大学・短大進学23.6%、専攻進学20%、就職55.4%、その他0.9%  
岐阜県加茂郡八百津町伊岐津志2803-6  
TEL 0574-43-1231  
URL <http://school.gifu-net.ed.jp/yaotsu-hs/>

### 『進学事典』を使った 進路学習後の オープンキャンパス参加回数



※2011年9月、3学年対象のアンケート結果より

「生徒は2校以上見学に行くと初めて、受け身で話を聞くだけではダメだと気づき、何を基準に学校を選べばいいのか、真剣に考え始めます。2校以上見学するきっかけとして、『進学事典』を使った進路学習はとても有効だと思います」と高井先生。

### 過去3年間の学部別進学者数 (2011年度は希望状況)

学部	2008年	2009年	2010年	2011年
文系				
文・人文	★★★★★		★★	★★★☆☆
社会・国際		*		
法・政治	*		*	*
経済・商	★★★★★	★★★★★	★★	★★
教育	★★★		☆	☆
生活科学		*	*	★★
環境				*
心理・人間		★★	*	*
福祉			*	
スポーツ			*	★★
芸術				
理系				
理学				
工学	★★★☆☆	☆	☆	★★★☆☆
情報	*	*	*	★★★☆☆
農学・生命		*	*	*
医学			★★	☆
看護	☆			
理学療法		*	*	

★は私立大学、☆は国立大学、星1つで1人

志望分野に加え、志望エリアも多様化した。以前の進学先が東海地方に集中していたのに比べ、今年度の志望校は中国、関西、北海道まで広がっている。これも、『進学事典』の影響だと高井先生は考えている。

「進学事典」を使った進路学習は2011年1月に初めて実施した。導入した最大の理由は、生徒の志望校選びがあまり

### 2回にわたる学校比較の体験が 学校見学への意欲を高める

「進路の流れを概観すると、1学年で進学が就職かを決定し、2学年は進路への知識や考えを深める。3学年は就職希望者は面接指導、進学希望者は個別の入試対策指導により、希望の進路を実現。ここ10年、就職内定率100%を続けている。」

岐阜県立八百津高校は、「進学も就職もきちんとできる高校」をテーマに、小規模校の強みを生かして手厚い進路サポートを行っている。今年度、人事交流で中学校から赴任した教頭の野田守彦先生は「本校は中学校で目立たなかった生徒がすこく成長すると地元では評判です。一方的に叱ったりせず、思いに寄り添う指導で、生徒は自己肯定感とコミュニケーション力を身につけています」という。

「進学関連の資料は膨大に届きますが、たいていは配るだけで、あとは生徒任せです。それでは本棚にしまわれるのが関の山。今回のように活用の仕方を学ぶのは、捨てられるだけだった資料を役立つ資料に変える、意義ある取り組みだと思います」と校長の飯田健二先生。

「進学関連の資料は膨大に届きますが、たいていは配るだけで、あとは生徒任せです。それでは本棚にしまわれるのが関の山。今回のように活用の仕方を学ぶのは、捨てられるだけだった資料を役立つ資料に変える、意義ある取り組みだと思います」と校長の飯田健二先生。

「進学関連の資料は膨大に届きますが、たいていは配るだけで、あとは生徒任せです。それでは本棚にしまわれるのが関の山。今回のように活用の仕方を学ぶのは、捨てられるだけだった資料を役立つ資料に変える、意義ある取り組みだと思います」と校長の飯田健二先生。

に安易なことへの危機感だったという。「多くの生徒が1校見学に行くと、そこで受けた説明に納得してしまい、他校はいつさい検討しないで決めてしまおう状況でした。なんとか2校以上見学する気になつてもらいたくて、『進学事典』を使うことを思い立ちました」と進路指導主事の高井良夫先生。

### 志望分野・エリアが多様化 学習意欲も向上

「あえて2回実施したのは、反復することで、学校情報を調べる力をつけるため。また複数の学校を比較する選択眼をもつてほしかったからです」と高井先生。

この学習を体験した今年度の3学年にアンケートを取ったところ、2校以上学校を見学した生徒は約6割にのぼった(詳細は上図)。大多数が1校だけの見学で志望校を決めていた前年度までと比べると明らかな変化といえる。また志望分野についても、人文・経済などに偏っていた2、3年前と比べ、生活科学・スポーツなど幅広い分野に分散した(詳細は下図)。放課後、勉強室を利用する生徒も増えた。「志望校を真剣に選んだ自負があるほど、学ぶ意欲も高まるようです。質の高い進路学習を行う大切さを改めて感じました」と校長の飯田先生。来年度以降も継続して使い、効果を検証する方針だ。



進学ネット

# 『進学ネット』の先輩や先生の話が 適性や志望動機を考えるヒントに

— 高知・県立 岡豊高校 —

取材・文／太田知子

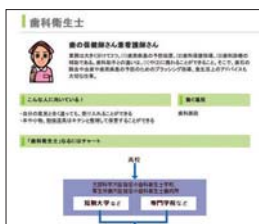


進路指導部  
白石志津先生(中央)  
進路指導部  
畑山ふみ先生(右)  
3学年担任  
濱川美香先生(左)

### School Data

生徒数／910人(男子393人・女子517人) 普通科25学級  
進路状況(2010年度)／大学・短大進学43.1%、専各進学42.4%、  
就職11.5%、その他3.0%  
高知県南国市岡豊町中島511-1  
TEL 088-866-1313  
URL <http://www.kochinet.ed.jp/oko-h/>

## ■ 生徒が自己PRを考える際に 参考にした「歯科衛生士」の記事



畑山先生のクラスのある生徒が参考にしたのは、歯科衛生士の「なるにはチャート」にある「こんな人に向いている」という項目だった。膨大な情報のなかから、検索によって瞬時に目当ての情報を探せるのがネットならではの便利さだ。

## ■ 『進学ネット』トップ画面



トップ画面からは78学問、473職種、501資格の解説記事や、「授業」「働く人」「先生・教授」「学生生活」「キャンパス写真」をテーマにした広告記事集にもアクセスでき、そのすべてのページが該当する学校情報とリンクしている。「現在のところ『進学ネット』の利用は、担任の裁量に任せていますが、今後も積極的に活用するよう呼びかけていく予定です」と白石先生。

「進学ネット」の評価は高く、以前から活用されてきた。「学校情報だけでなく、仕事や資格に関する記事、進学に必要な面接や出願ノウハウ記事など進路情報が網羅的に扱われていて、生徒からのどんな

簡単な単語の  
楽しみながら志望校選び

普通科高校ながら文・理・ビジネス・生活文化・体育・芸術など、9コースに分かれ、希望や適性に応じた多彩な教育が受けられる高知県立岡豊高校。進路指導部は系統的なキャリア教育の確立を目指し、インターンシップをはじめ、さまざまな進路行事を展開している。「進路学習と並行して総合学習にも力を入れています。昨年度の2学年は、地元・高知の歴史などを調べました。ここで身につけた『探求する姿勢』も、進路を主体的に考える力になっています」と語る3学年担任の濱川美香先生。

さらに学校のホームページも調べ、保護者と相談しながら、徐々に志望校を絞っていきました」と畑山先生。

情報をもとに、地元はもちろん大阪にまで、多くの生徒が学校見学に行きました。

相談にも対応できます。私自身、校内の進路ガイダンスで、いつも『進学ネット』のスケジュール記事を使って説明しています」という進路指導部の白石志津先生。  
畑山ふみ先生も『進学ネット』を活用している一人だ。昨年から今年にかけて、担任する生活文化コースのクラスで、『進学ネット』を使った進路学習を3回行った。  
まず2学年の3学期に、使い方の練習を兼ね、興味のあるキーワードを入力し、検索結果から気になる学校を探す作業を行った。「『生活』『料理』などの単語を入力するだけで、関連するいくつもの情報が出てきます。写真が多く、文章も平易なので、生徒たちは楽しみながら志望校の選択肢を広げられました。ここで得た情報をもとに、地元はもちろん大阪にまで、多くの生徒が学校見学に行きました。

どの先生も、『進学ネット』を何度も使うことで、生徒が自分で考え、調べる力が伸びると実感しているようだ。

「歯科衛生士を目指すある生徒は、『この仕事は整理整頓ができる人が向いている』という記事を見つけ、『自分には無理かもしれない』と戸惑った。しかしそれを機に面接に向けて、サービス精神などの長所をアピールし、足りない部分を改善する決意をまとめることができた。

「進学ネット」に掲載されている、職業人が語る記事や、在校生が学校生活を語る記事、先生や教授のメッセージなどから、ヒントになる言葉、共感した言葉を書きだしました」。

濱川先生と畑山先生のクラスで、3学年の6月に行ったのは志望校数を比較するワーク。同校の「進路の手引き」中のワークシートに『進学ネット』を使って調べた各校の特色を書き出した(★)。「実は2学年の3学期にリクルートの『進学事典』を使って同じ作業をしています。生徒たちはその経験をもとに、気になっていた情報をみつけたし、最終決定の参考になりました」と濱川先生。  
畑山先生のクラスでは、3学年の1学期中に、推薦・AO入試や就職の面接準備のために、もう一度『進学ネット』を使った。「志望理由や自己PRを考える時期ですが、なかなか書けない生徒が多いです。そこで『進学ネット』に掲載されている、職業人が語る記事や、在校生が学校生活を語る記事、先生や教授のメッセージなどから、ヒントになる言葉、共感した言葉を書きだしました」。

抜き書きした言葉を参考に  
「面接カード」を完成